

心の輪32R



『**りんごの何を食べるのか**』という資料を通して、
『**真の豊かさ・ぜいたく**』について考えました！

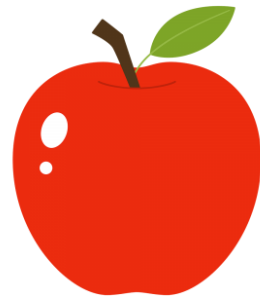


外でごはんを食べると美味しく感じるのはなぜだろう？



誰かと一緒にごはんを食べると美味しく感じるのはなぜだろう？

「豊かさ」とは何だろうか？「ぜいたく」とは何だろうか？ガツガツたくさん食べることが「豊かさ」や「ぜいたく」であろうか？話の中で筆者は、『食べる量、使う量、その物量の多寡だけで、ぜいたくさや豊かさが決まるわけではない』と述べている。りんご一つでも、それを食べる時、我々はその味以外に何を味わっているのだろうか？



**いやしいぜいたくもあるし、
美しいぜいたくもある。
冷たいケチもあるし、温かい
儉約もある。**

「真の豊かな生活」とは、ただごく普通に過ごしているのではなく、「考え方」を変えてみることで、食べ物なら、ただ食べるのではなくて、味わって食べるなど、「ぜいたくをし過ぎない生き方」だと思う。

「真の豊かさ」とは、何事においても考え、思い、行動できることだと私は思いました。生きていく中で、喜び、悲しみなど、たくさん感情を使うことが当たり前ですが、一番素晴らしいと思います。

「豊かさ」は人によって違うことが分かった。豊かになりたいと思うことは、自分がいつもではできないことをしたいと思うことだと思う。この思いはなくなるものではないけど。この思いを抑えることも必要だと思った。

私は、豊かな生き方・生活と聞かれて、すぐに答えることができなかった。でも、私が今考える「豊か」とは、自分や時間を大切にし、自分でしっかり意志を持つことだと思う。余裕やゆとりを持った生き方が「豊か」だと思った。

同じものを食べるにしても、ただ「美味しい」と思うのではなく、「これをつくるのにどのくらい苦労したのだろう」などと思いたい。同じものを食べるならば、「感謝」を大事にしたい。

真に豊かな生き方・生活は、お金は関係なくて、一つの物事からたくさんのことを味わったりすることで、お金のことばかりを考えたりすることは真の豊かさじゃないと思った。

私は周りの人に感謝しながら生活することが、真に豊かな生き方だと思います。ご飯を食べるにしても、作ってもらった人に感謝の気持ちを込めながら食べるべきだと思いました。



「貧乏とは、少ししか持っていないことではなく、かぎりなく多くを必要とし、もっともっとほしがることである」
このことばは、人間にとって何が大切かを教えています。

「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」20頁

ウルグアイ第40代大統領 ホセ・ムヒカ